

受賞者のご挨拶

株式会社 アイネックス  
代表取締役社長 鎌田 良勝 様



この度は荣誉ある中小企業振興表彰に選定いただき、誠にありがとうございます。弊社の長年の取り組みを評価頂きましたことに、心より感謝申し上げます。

弊社は、75年前、北海道出身の初代代表、伏見富太郎氏が、50歳の時に秋田の憲兵隊長を辞し、自らが子どもの頃勉強したくても出来なかった、させてもらえなかった経験から、「どんなところにも勉強をしたい子どもはいる。ぜひともその子ども達を応援したい」という思いで興した事業であります。当時、初代は秋田県の中でも主要都市から離れた文具店のない地域を中心に、衣料品店さんや下駄屋さんを訪れ、「隅の一角で良いので子ども達のために文房具を置いてくれませんか」と秋田県内を走り続けました。

弊社の創業は昭和23年ですが、創業時に作られた創業の精神があります。

- 一、 信用は最大の資本なり
- 一、 奉仕を先に利を後に
- 一、 努力なくして発展なし

75年たった現在も、経営理念として引き継がれております。

2代目伏見晃一氏は、昭和54年、時代の変革に合わせて秋田ライオン事務用品株式会社を設立し、設立の精神として「学ぶ姿勢と闘う姿勢はどこにも負けない」と掲げました。さらに、私が入社した頃から事務機器、IT機器へとお客様のお手伝いの幅を広げることで、事業の拡大を図りました。初代、2代目、および先達の先輩



従業員の方々には感謝の念を抱いております。

以後、株式会社アルファスペース、株式会社アイネックスと設立を重ね、平成15年に4社統合して、「ING+NEXT 止まらない次へ」を信念に株式会社アイネックスとして新たにスタートしました。

秋田県人はPR下手と言われますが、まずは秋田県人が県内の景色、食べ物を求めて、行ってみる、話してみる、聞いてみる、食べてみる。素晴らしい人柄、景色、おいしさを体感、実感する。そして納得して初めてPR出来ると信じております。弊社では、まさしく「実践、提案」を繰り返し、誇れる秋田づくりのお手伝いを進めたいと思います。

秋田県では、人口減少問題を筆頭に様々な課題を抱えておりますが、弊社では、働き方改革による生産性向上を目指し、一人ひとりのエンゲージメントやモチベーションを高め、働く熱量を上げていく環境づくりのお手伝いを目指しています。

1日24時間は全世界共通で、そのうち8時間は自宅での就寝をはじめとした暮らしの時間、また、その他8時間は通勤、ショッピング、飲食、

レジャーなどの生活の時間、そして共働きが主流になった今、最後の8時間は皆様が働いている時間だと思います。ただし、この働く8時間の環境づくりのためにお手伝いする業種は、非常に少ないと強く思っています。「事務所は事務を処理する場所。オフィスは明日の戦略を考える場所」であり、1日の3分の1、ひいては人生の3分の1を過ごすオフィスは、昨今大きな問題になっている生産性向上のために最も欠かせない要素です。弊社自身で常に新しいチャレンジをまずは実践し、その経験を活かしてお客様へご提案させて頂いております。

テレワーク勤務についても、コロナ禍で急速に広がりを見せましたが、地方ではなかなかその必要性の認識、実践が追いつかない中で、一昨年、まずは弊社が実践することにより、総務省から秋田県で初めて、東北でも弊社を含めて2社の「テレワーク先駆者百選」に選出して頂くことが出来ました。

特に現在は、RPA、AIなどの業務効率化技術をはじめ、様々な技術が日進月歩で進化しております。なかでも私は、働く方々の教育、リスキリングが最も重要であると思います。弊社ではコーチングと称し、働く方々への教育支援、運用支援のメニューも充実させています。お客様と並走して課題を発見し、解決を図り、新しい未来を創造し、共に悩んで一緒に成長出来る企業を目指しております。お客様との信頼関係を築き上げるということは、このように並走型でお客様に寄り添っていくことであると考えています。

また、働くうえで重要なことは、情報の収集、共有、そして発信です。お客様にとって有用な情報を、いかにして収集するのか、そして、それを社内で共有、協議し、独自の付加価値を創造、発信していく事の繰り返しが仕事であると思いま

す。どんなに小さなことでも気付き、興味を持ち、真剣に捉えることが出来る人材を大切に育てていくことが必要であると思います。弊社は、その取組みを社内で実践し、そしてお客様への事業展開として空間コーディネート事業、DX推進事業があります。

また、情報共有の部分では、従来弊社では役員だけの共有、管理職までの共有、一般従業員への公開といったように、クラス分けされた情報の共有、公開が基本でしたが、最近では「ヤング、ミドル、シニア」をまとめ、1つの情報や議題について、世代を越えて、男女の垣根を越えて、あるいは役職を越えて、共有し協議する事を進めています。やはり、ヤングにはヤングの、ミドルにはミドルの、シニアにはシニアの長短があります。それぞれを非難し合うのではなく、その長短を認め合い、良いところをミックス、掛け算させることでさらに良い方向性を見いだすことが出来ると思います。弊社の空間コーディネート事業、DX推進事業は、まさにお客様へこのような情報をご提供し、お手伝いをしていくために、物販からソリューションへ事業転換をはかってきました。

創業以来75年という年月を、お取引先の皆様、地域の皆様、諸先輩の皆様方に支えられてここまで来られたと思っております。今後も、コロナ禍の行く末、戦争の終結、エネルギーや脱炭素の問題、インフレ等、諸問題を多く抱え、先行き不透明な状況ではありますが、「提案の土俵を経費勘定から投資勘定へ展開する」という強い思いと共に、誇れる秋田県づくりのためにも、そこに生まれる子ども達のためにも、明るい未来を創造し、前向きにチャレンジしてまいり所存でございます。今後とも引き続きご指導ご支援よろしくお願ひ申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。